竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ

第170版

理念と実践で絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願いいたします。

以前行った、てるてる坊主を作るアクティビティでのひとコマ。この雰囲気のまま会議へ！

協力を引き出す場づくり
～アクティビティ～

カグヤでは月に一度の会議の議題に入る前に「アクティビティ」を行っています。私たちはアクティビティと呼んでいますが、一般的には「アイスブレイク」と呼ばれるものです。場を和ませることでコミュニケーションが取りやすい雰囲気を作り、みんなで同じ目的に向かいやすくするために行っています。

毎月のアクティビティは社内の担当者が開発しており、開発する時に大事にしていることが「協力要素を入れること」と、「園で先生方が行えるものを考えること」です。

一般的なアイスブレイク中には場を和ませる効果があっても、参加者全員で協力して目的を達成する要素がありないものもあるため、担当者で協力要素を加えるなどアレンジをして、カグヤ流アクティビティを完成させています。

先日新しく開発し、早速会議前に試したアクティビティに「しりとり他己紹介」があります。例えばクルーの中に「やまだ たろう」という人がいたとして、その人がどんな人柄かが分かる他己紹介を他のクルーがするのですが、名前の最後の一文字である「う」から始まる言葉で「うんどうが得意なやまだたろうさんです！」のように紹介をするというルールのアクティビティです。

実際に出た他己紹介文を抜粋してご紹介します。

・野見山広明【き】…「切れ味鋭い経営者、野見山広明」「きんとうんに乗って仙人目指すよ、野見山広明」
・眞田海【い】…「イノベーション男、眞田海」「生き方が働き方、眞田海」
・宮前奈々子【こ】…「古民家暮らしも早2年、宮前奈々子」「こじんまりしたものが大好きです、宮前奈々子」
・村田智子【こ】…「行動が誠実な真心の人です、村田智子」「心を磨き、心で包む村田智子」

他にもその人を表す紹介がたくさん発掘され、選挙みたいで面白い！　といった感想や、あいうえお作文のように『や』『ま』『だ』と頭文字から始まる紹介をしても面白いかも！　といったアイディアも出されました。そういった声を反映させてバージョンアップをし、お客様に紹介できる形にしていく予定です。

この日もアクティビティのあとは和気あいあいとした雰囲気で会議に入ることができました。何より、紹介文を考える時間はみんなで協力して対象のクルーのことを深く考える時間となり、そのあとの会議にもお互いへの思いやりを持ったまま入れることが、アクティビティを行う大きな効果だと改めて感じました。

カグヤのホームページでは他にも多種多様なアクティビティを紹介しています。年度初めで入職されたばかりの方が多い時期に適したものや、今回ご紹介したようなズームなどのオンラインでも行えるものなど、園の状況に合わせて使い分けていただけたらとの思いで開発を続けています。

今後も少しでも先生方のお役に立てる情報を発信していきますので、どうぞご期待ください！

（眞田 由莉）

アクティビティの紹介はこちらのQRコードからご覧いただけます。
今回行った「他己紹介しりとり」など、新作も随時追加予定です。

繋がりで創る

大分県日田市のみそらこども園さんがインスタグラムの活用で直接園に採用の問い合わせが来るようになったことについて、前号では概要をお伝えしましたが、その詳細を今回はお伝えします。

きっかけはコロナで保護者が園内に入れず、子どもたちの普段の様子が分からない環境になってしまったことでした。最初は職員に負担をかけたくなかったため、池永園長がインスタに投稿していたそうです。すると、「先生が連絡帳で書いていたことがこのことだったんですね！」と保護者から連絡があり、一定の効果を感じたそうです。

また、職員同士も見るため、「あの子にあげた段ボールがここで使われてたのね。だからあんなに持って帰りたいって言ってたのね！」など職員間での子どもたちの情報共有になることにも気づいたそうです。ある日、デジカメの電池が切れて、職員がスマホで写真を撮ったら今を切り取ったすごくいい写真ばかりになり、そこからデジカメではなく、スマホの利用をOKにして「今」をインスタで投稿するようになりました。投稿時のルールを皆で決めた後は職員がどんどんと投稿するようになったそうです。

就職活動にも繋げようと、近隣の短大や養成校、職員の出身校などをフォローするとフォローバックがあり、繋がりが広まって行き、国公立大を出た学生から働きたいと連絡が。周りからは正規で入れる園を探したほうがいいのではと言われたそうですが、HPやインスタを見て子ども主体だと分かり、臨時採用でもいいのでぜひ就職したいと思ったそうです。今も毎日楽しいと働いてくれているそうで、今までHPやSNSで採用というのを考えたことはなかったが、とても重要だと教えてくれました。

SNSの一つの投稿が、保護者にとっての安心や信頼に繋がり、職員同士の子ども理解や情報共有に繋がり、そしてその園で働きたいという人とも繋がる大切な実践だと思います。

（眞田 海）

カグヤクルーブログも毎日元気に配信中！
カグヤウェブサイト
www.caguya.co.jp
「聴福庵」の情報はFacebookで
神家総本家 聴福庵

CCN CAGUYA COMPANY NEWS カグヤニュース

カグヤでは、それぞれが別々の場所にいても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

稲の再会

美しい黄金色の田んぼは、まさに日本の原風景！
未来へと繋いでいけますように。

稲刈りシーズン到来で、あちこちで黄金色に輝く光景がみられます。千葉と福岡にある私たちの田んぼでもおかげさまで無事に収獲ができました。

今年は千葉と福岡で同日に稲刈りを行い、離れていても写真や動画を共有することで喜びも倍増。更に、千葉の田んぼから福岡には収穫したばかりの稲藁が届き、そのたわわに実った稲と心遣いに感動でした。

一緒にはざ掛けを。9月29日の十五夜には、千葉と福岡で収穫できた稲を一緒にお供えし、お月見したいと思います！

早速一緒にはざ掛けをしたり飾ってみたり…。思えば、千葉も福岡ももともと藤﨑農場の皆様が育ててくれた同じ苗。こうして幼い頃に一緒に育ち、途中別々の離れた場所で成長し実り、またこうして再会した稲たち。どこか嬉しそうにも見えてきて、なんだかロマンチックというか感慨深いというか、人生？稲生？の不思議さ、面白さも感じています。

人も植物も動物もみんな同じ命であり、それぞれにストーリーがあることに改めて気付く思いです。

（宮前 奈々子）

保育談議に花が咲く

保育環境研究所ギビングツリー主催、GTサミットを開催しました。「見守る保育」を実践する理事長・園長先生方が年に一度集まることから、同窓会と表現されることもあります。

コロナ禍を経て4年ぶりに現地参加する先生方も多く、久しぶりの再会に会場内のあちこちで会話が弾んでいました。また、セミナー後には「せっかくだから懇親会をやろう！」と、園長先生方主催の企画がされました。数年ぶりの再会に話は尽きず、美味しい食事にお酒も進みます。場が温まってきたところで、グループ対抗のクイズ大会や、STEM実験が行われました。熱く語り合う時間がありながら、協働して考え更に仲が深まる企画も用意されており、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

異年齢で子どもたちが学びあうように、先生方それぞれの経験が助けとなり、誰かの背中を押したり、試行錯誤に勇気をもらったりと実践者同士だからこその活気を感じました。

私たちカグヤも「発達」の観点から、ソフトやセミナーを通して少しでも先生方のお力添えが出来たらと思っています。

（奥山 卓矢）

今年はオンライン参加だった先生方も、来年はぜひ会場でのご参加をお待ちしております！セミナー後、皆さんで語り合いましょう！

一期一会庵

食文化の知恵

私たちの暮らしの中には食文化というものがあります。この食文化は、食（食事）にまつわる文化だと定義されます。

食文化には、食材の選び方、献立の立て方、調理法といったことから、食器の選び方、また誰とどのように食べるのか、といったことや、作法・マナーなどに至るまで多くのことが含まれると記されます。これはどこで一番継承されていくのか、それは家庭だといいます。各家庭で祖父母や両親から子どもや孫へと、暮らしのなかで受け継がれていくのです。

この食文化は、自分が産まれ育ってきた「風土の知恵」を体で学ぶのにとても重要です。自分たちの地域がどのようなものを生産できるのか、気候がどうなっているか、土や水、河川や山の状態。また保存しつつ美味しくするためにどのように調理し加工・工夫してきたか、またその方法やルール、これらの総合的な知恵の一切が含まれています。

この食文化が家庭からなくなるというのは、総合的な生きる知恵が消失するということにもなります。知恵が消失するとどうなるか、それは風土が消失することと同じです。風土の多様性が消えれば、その地域の持ち味や特徴も消え、さらにはその風土で醸成された他の文化も次第に消えていきます。食は人をつくるものですが、食文化もまた風土をつくるものです。だからこそ、文化醸成の中心はこの「食文化」であることを忘れてはいけないといいます。

私の故郷においては、伝統高菜というものが食文化として存在してきました。高菜は九州の特産品のようにいわれていますが、中国から伝来し私たちの故郷の風土に次第に定着し、風土に合うように進化してきました。少し前まではどの家庭でも高菜漬けはつくられており、毎日の食卓に高菜は欠かせないものでした。私たちはこの伝統固定種の高菜を育て、もう一度、食文化や風土が甦生するための活動をしています。長い時間がかかりますが、子孫や未来世代に少しでも伝統文化を伝承したいと思って活動しています。

現代は家庭教育が次第に失われ、今では園こそがその役割を果たすのではないかと思います。子どもの安心できる未来に食文化は欠かせません。私たちもできるところから皆様に貢献できるように取り組んでいきたいと思います。

（野見山 広明）

編集後記

表面でご紹介した園のインスタグラム。検索してご覧ください！

アクティビティでの嬉しそうな表情、収穫を喜びあった稲刈り、GTサミットでの先生方の笑顔。インスタに投稿したら、たくさんの「いいね！」がつきそうな1ヶ月でした。インスタの効用は様々ありそうですが、園では、「いいね！」だけではなく、日々「いいな～」も溢れているのではと思います。年上のお兄さん・お姉さんみたいになりたい！ と憧れることもあれば、他の子を羨ましく思い、我慢することも子ども集団ならではの体験ではないでしょうか。

新しいツールが次々登場してきますので、保育での有効な活用事例を今後もご紹介していけたらと考えています。

（奥山 卓矢）